



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	過去と今、人とモノ、文化財活用の未来
Author(s)	平澤, 悠
Description	セッション1: パブリック考古学の可能性
Relation	先住民文化遺産とツーリズム : 北海道の可能性(International Symposium: Indigenous Heritage and Tourism - Potential in Hokkaido). 2012年10月13日-14日. 北海道大学学術交流会館小講堂, 札幌市.
Issue Date	2012-10-14
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51245
Type	conference presentation
File Information	session1report2.pdf



International symposium 2012 Indigenous Cultural Heritage and Tourism

国際シンポジウム 先住民文化遺産とツーリズム ー北海道の可能性ー

『過去と今、人とモノ、文化財活用の未来』

平澤 悠

(北海道大学大学院文学研究科修士課程)

過去と今、人とモノ、 文化財活用の未来

2012.10.14

北海道大学文学研究科修士課程

平澤悠

コンテンツ

1. 文化財と文化遺産
2. Whose and Where
3. コミュニティ考古学 (Community Archaeology)
4. 知床 斜里町およびウトロ地区におけるコミュニティ
5. 文化遺産との距離

文化財と文化遺産

• 文化財の定義 (有形文化財)

- 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書籍、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いもの(これらのものと一体をなしてその価値を形成している土地その他の物件を含む。)ならびに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料。(第二条第一項)

文化財保護法：昭和25年5月30日施行(1950年)より

文化財と文化遺産

• 世界文化遺産の定義

• 記念物：

科学的・美術的・歴史的に世界基準で特に価値のある建築物、記念的な彫像・絵画、考古学的な要素を持つ構築物、碑文、洞窟壁画、特徴的な記念物の集合体。

集合建築物：

科学的・美術的・歴史的に世界基準で特に価値のある複数の集合・分散型建築物。さらに建築物が存在する風景や土地との同質性も考慮される。

• 遺跡：

人類または人類と自然が複合的に作り出した領域で、歴史的、美的、民族詩的、考古学的見地から世界基準で特に価値があるもの。

Convention concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage 1972より

文化財と文化遺産

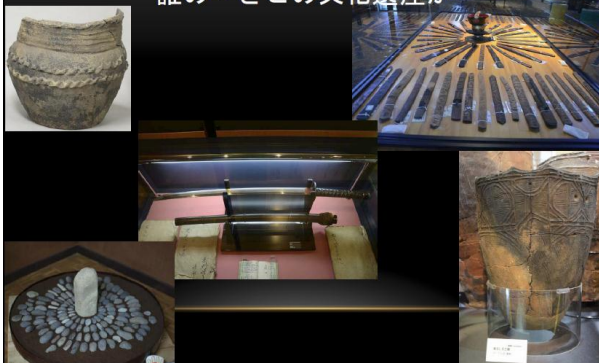
- 先住民の文化遺産の定義
- 先住民の文化遺産とは、先住民またはその個人が維持し、発展させた文化遺産の特徴的な要素で構成される、有形または無形の創造物、表象および製作物であって、当該民族の伝統的な文芸、芸術または科学的な期待を反映したものをいう
- ・史跡、聖地
- ・伝統的な土地・水域、種子、医薬品ならびに植物
- ・自然ならびに万物に関する伝統的な知識および慣習
- ・物語、詩、なぞなぞなどの口承伝統
- ・表現、言葉、記号、名称、象徴およびその他の表示という言語の側面
- ・舞踊、演劇のような実演もしくは作品、芸術的形式または儀式。
- ・芸術、とりわけ素描、デザイン、絵画、カービング、彫刻、陶器、モザイク、木工品、金属細工、宝飾、楽器、バスケット編み、手芸品、刺繍、織物、敷物、衣装および建築様式
- ・社会的慣習、儀式および祭礼行事

Review of the draft principles and guidelines on the heritage of indigenous peoples, Expanded working paper submitted by Yozo Yokota and the Saami Council on the substantive proposals on the draft principles and guidelines on the heritage of indigenous peoples, E/CN.4/Sub.2/AC.2/2005. を参照

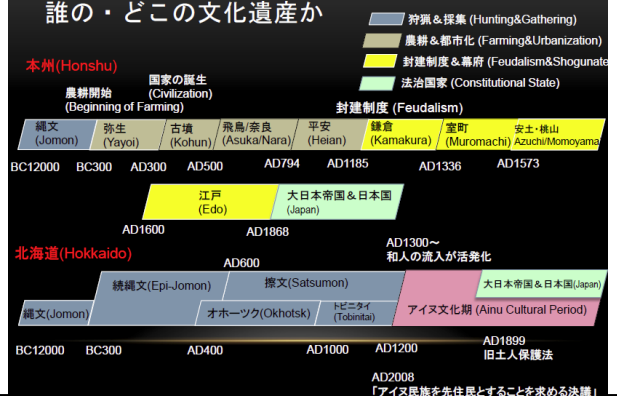
文化財と文化遺産

定義立案者	保護対象	認定条件	誰の	どこの
UNESCO	世界の遺産	科学的・美術的・歴史的な価値	全人類共通	世界
日本国	日本国内の遺産・文化財	学術上・美術上・歴史上価値が高い	日本国民	日本全国
横浜&サミー委員会	先住民の遺産	先住民の伝統的な知識・美術・儀式など	特定の先住民集団	先住民の帰属する土地

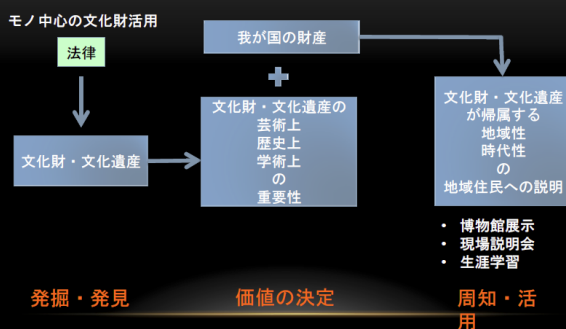
WHOSE AND WHERE 誰の・どこの文化遺産か



WHOSE AND WHERE 誰の・どこの文化遺産か

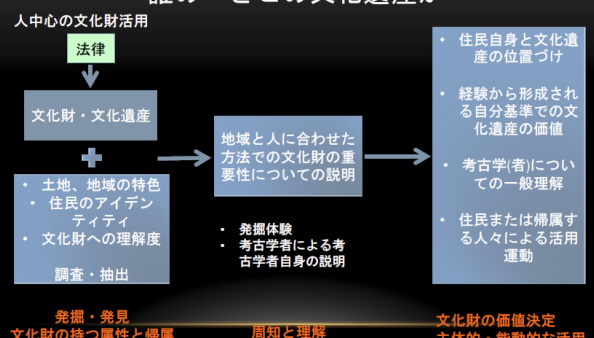


WHOSE AND WHERE 誰の・どこの文化遺産か



「モノ中心」の考え方は岡村勝行・松田隆(2008) を引用

WHOSE AND WHERE 誰の・どこの文化遺産か



「人中心」の考え方は岡村勝行・松田隆(2008) を引用

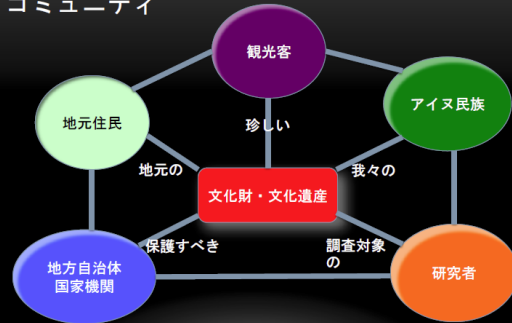
コミュニティ考古学 COMMUNITY ARCHAEOLOGY

- ・コミュニティ＝地域、共同体
- ・英国レスター州での市民参加型調査
- ・コミュニティ≠地域社会全体
- ・ある共通の項目によってグループ化される個人の集合体



舟形湖近くの新たに発見されたチャシでのカムイノミ
結城伸司氏(右)と早坂雅貴氏(左)

知床 斜里町およびウトロ地区における コミュニティ



先住民文化遺産と考古学における可能性



チャシコツ岬下B遺跡での発掘体験



文化遺産との距離

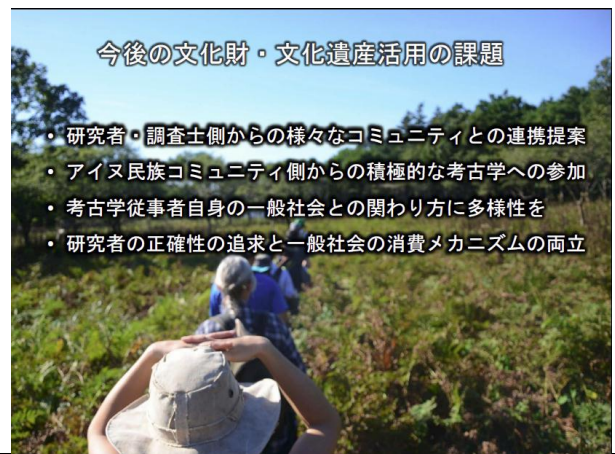
- ・『埋蔵文化財の保存と活用 (報告)』(文化庁 2007)
- ・地域のニーズの集約
- ・発掘現場の積極的公開と体験実施
- ・外部機関との連携
- ・様々な活用事業の実施



『Jorvik DIG』(撮る: York Archaeological Trust
写真: <http://www.borleyhall.org.uk/groups.asp>)

今後の文化財・文化遺産活用の課題

- ・研究者・調査士側からの様々なコミュニティとの連携提案
- ・アイヌ民族コミュニティ側からの積極的な考古学への参加
- ・考古学従事者自身の一般社会との関わり方に多様性を
- ・研究者の正確性の追求と一般社会の消費メカニズムの両立



ご清聴ありがとうございました。

引用・参考文献

Hodder, I. 2003. "Social Thought and Commentary: Archaeological Reflexivity and the 'Local' voice." *Anthropological Quarterly*. Vol. 76(1)

UNESCO World Heritage Centre 2005. "Convention concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage 1972." *Basic Texts of the 1972 World Heritage Convention*.

United Nations Economic and Social Council. 2005. "Review of the draft principles and guidelines on the heritage of indigenous peoples, Expanded working paper submitted by Yozo Yokota and the Saami Council on the substantive proposals on the draft principles and guidelines on the heritage of indigenous peoples, E/CN.4/Sub.2/AC.4/2005/3." <http://daccess-dds-ny.un.org/doc/UNDOC/GEN/G05/145/36/PDF/G0514536.pdf?OpenElement>. 10/3/2012 アクセス.

岡村勝行・松田隆 2008 「考古学の新地平 変革期の考古学者(2) 何が語れるか、何を語るべきか」 『考古学研究』 v55(2)

※特に出典記載のない写真は報告者撮影。